



# Japanese Journal of Geriatrics

**VOL.47**  
**Supplement**  
**2010**  
**May**

**学術集会講演抄録集**



**社団法人日本老年医学会**

O-190

認知症疾患の周辺症状におけるフェルラ酸, ガーデンアンゼリカ化合物健康食品「F」の有用性の検討

東京医大八王子医療センター老年病科<sup>1)</sup>, 東京医大老年病科<sup>2)</sup>

金谷潔史<sup>1)</sup>, 阿部晋衛<sup>1)</sup>, 酒井 稔<sup>1)</sup>, 藤井広子<sup>1)</sup>, 岩本俊彦<sup>2)</sup>

【目的】「F」は, 米ぬかから抽出されたフェルラ酸と西洋トウキから得られるガーデンアンゼリカから成る健康食品である. 近年, 「F」がDATの中核症状や周辺症状(BPSD)に有効であり, さらにレビー小体型認知症(DLB)やピック病, 脳血管性認知症等のADLを改善させたという報告がある. また, 動物実験で, 「F」がβアミロイドの凝集を阻止, 老人斑の形成を抑制しているとの報告もある. われわれは, 認知症患者のBPSDに対して「F」の有効性の検証を, 前方視的に行ったので報告する. 【方法】当科外来通院患者で, DAT, DLBの診断確定している24名(DAT 20, DLB4名. 男性10, 女性14名, 平均年齢78歳)を対象とした. 観察期間は4ヶ月で, 「F」を1日2包(朝夕2回)最初の2ヶ月内服するA群12例, 後半2ヶ月内服するB群12例に分けてクロスオーバー試験を行った. 評価方法は, BPSDの評価尺度であるNeuropsychiatric Inventory(NPI)に介護者の負担度(distress)の評価を加えたスコアNPI-D, 認知機能検査のMMSE, ADAS, うつスケールであるGDS15をF服用前後で測定し, それらの変化を検討した. 画像検査としてSPECT検査を行い, 投与前後での脳血流の変化をSPM8で比較検討した. 【結果】検査終了したA群12例で, 平均NPI scoreは, 内服前18.08から内服後10.58まで有意な低下( $P=0.003$ )を認めた. また, 負担度scoreも12.17から7.50まで有意な低下( $P=0.000$ )を示し, 「F」のBPSDに対する改善効果を示した. 投与前後におけるMMSE, ADAS, GDS15のスコアに有意差は得られなかった. SPM8を用いた脳血流量は, 「F」投与後に右後頭葉, 左小脳半球に有意な上昇を認めた. ( $P<0.001$ )なお, B群は現在検査期間中のため結果はまだ出ていない. 【結論】BPSDに対する「F」の効果の可能性が示唆された. 今後も症例を重ねたい.